

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 令和4年度自己点検・評価について

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	当該科目の取組状況や学習状況は学生ポータル(UNIVERSAL PASSPORT)上に集約され、学務課や担当教員は学生ポータルに記録された学修状況から受講者ごとの講義への取組状況を把握することができる。
学修成果	各科目ごとの履修率、単位修得率、成績分布は教務管理システム(GAKUEN)により確認することができる。また、科目ごとに実施される授業アンケートにより、学生自身の自己評価、学生の理解度や授業の内容や進捗についての意見を集めるようにしている。これらの結果を分析することで、当該科目の今後の教育内容の改善に活用する。さらに、複数教員が担当している科目では、教員間で情報共有することにより、受講生の学修状況を把握し、次の回の講義で活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	科目ごとに実施される授業アンケートにより、学生自身の自己評価、学生の理解度や授業の内容や進捗についての意見を分析することができる。アンケートによると、授業の理解度については、おおむね理解し能力が向上したとの回答を得られた。分析結果をもとに当該科目の今後の教育内容改善に活用する。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムの受講者に対して、「データサイエンスの必要性や重要性についてどのように考えるか」というアンケートを実施しているが、多数の学生がデータサイエンスの必要性・重要性を理解した、と回答している。また、データを扱う技術やAIへの興味にもつながり、今後の大学での研究に役立つことを学べたと回答している。後輩等他の学生への推奨度に向上にもつながるものと期待できる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	工学部以外では、令和4年度に新たなプログラムを開始したが、必修科目としており、令和4年度入学者全員が履修している。年次進行に伴い履修率は100%となる予定である。また、工学部における本プログラムは全学生が履修可能である。2年次の配当科目は選択科目が含まれているためガイダンスを通じて履修を促す。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和4年度末時点でカリキュラム修了者が輩出されておらず、現時点では評価することができない。修了者が輩出され次第、その就職先等への調査を行い、企業からの評価や修了者の活躍状況を調査することとしている。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界で使われているデータの取り扱いやAIの技術紹介を講義で行うことにより、産業界の視点を取り入れることが期待できる。すでに、社会情報科学部では、リテラシーレベルから実践に軸足を置いているため、産業界からも、演習科目の見学希望や講義そのものを担当したい等の申し出を受けている。また実際に、実データの前処理に関する講義や、企業での最新事例を交えた倫理教育は、企業あるいは企業業務の経験者に担当して頂いている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	データを扱うために基本的なことから講義を始め、実データの取り扱いやAI技術など、身近なデータの分析結果の利用方法を紹介することにより、数理・データサイエンス・AIに興味を持ってもらえるようにすると共に、学ぶ意義についても考え、理解する機会となるようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	学生による授業評価アンケートの意見や講義担当者からのフィードバックにより、分かりにくい部分を分析することで、講義内容、講義資料の改善に努める。看護学部では、対面講義の中で分からない所がある場合には、追加で動画や資料を作成し、自宅から何度でも閲覧できるようにした。これによって、自分のペースで学習でき、理解できるように対応している。